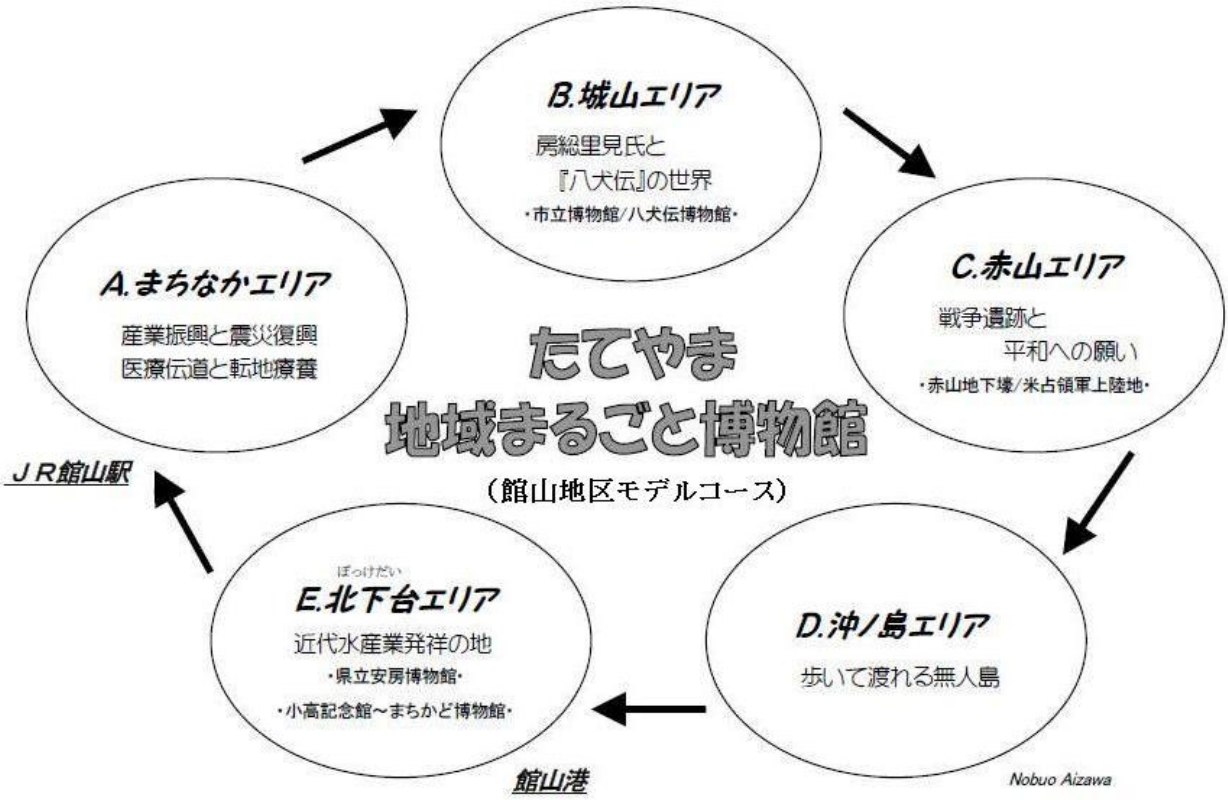
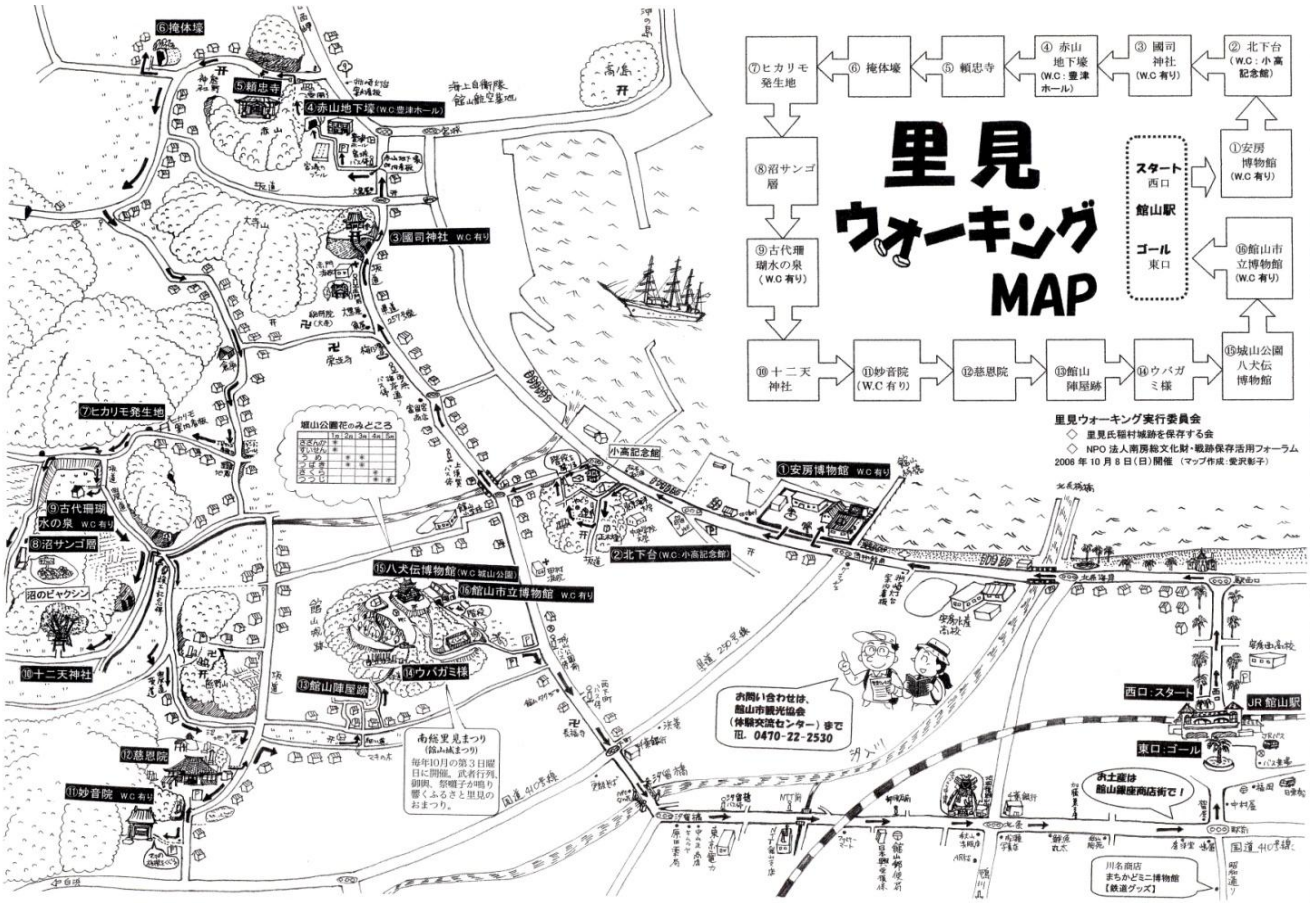
安房国再発見

海とともに生きるまち



NPO法人安房文化遺産フォーラム ◆ ツアーガイドのご案内

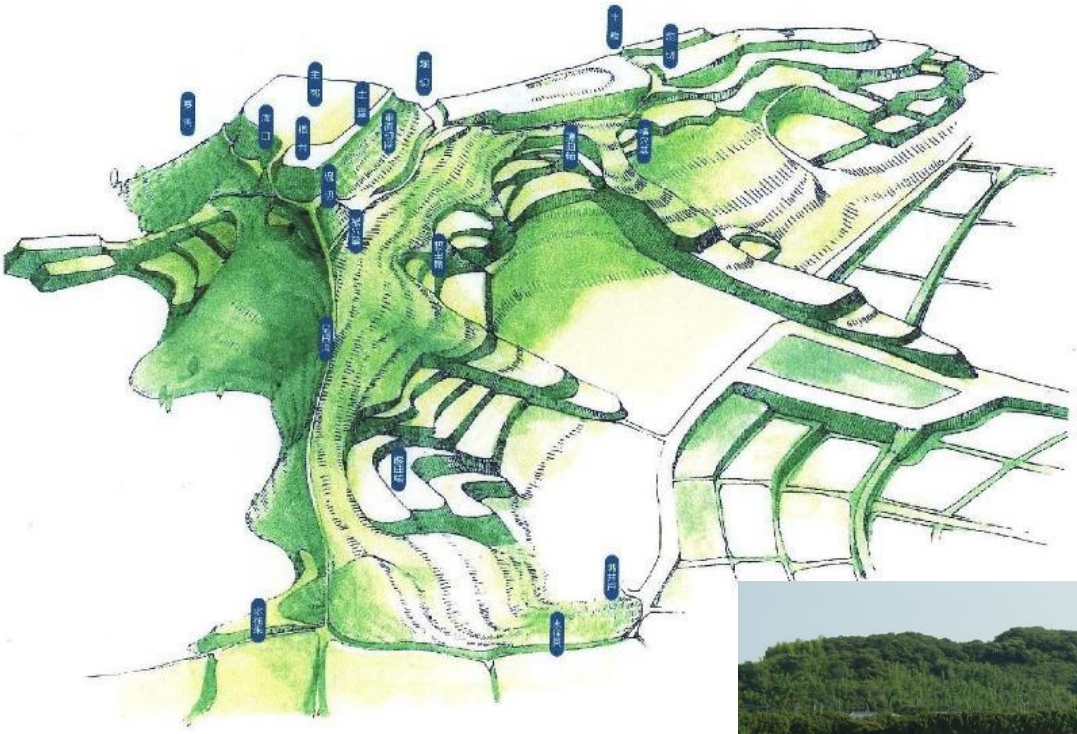
◇対象：10 名以上の団体　◇ガイド料：参加者1人あたり 1,500 円～　（座学・ガイドブックつき）



房総半島南部の安房国・館山は、古くから海路を通じてさまざまな人びとが往来し、黒潮とともに生きたまちです。戦国大名里見氏の城下町で「南総里見八犬伝」のふるさとです。戦争になると東京湾要塞の軍都として重要な役割を担いました。美しい自然や歴史・文化遺産をめぐる「里見ウォーキング」に参加した人びとは、館山の魅力を再発見しています。コースをエリア別テーマ別に編集した『海とともに生きるまち』は、ウォーカー必携のガイドブックです。

活動のあゆみ

1996年、市道建設計画の進んでいた里見氏稲村城跡の保存を求める市民運動がスタート。市民の手でヤブを刈って整備し、看板を設置してウォーキングやシンポジウムなどを開催。市民の文化活動を通じて稲村城跡の保存と史跡化を訴え続け、市道の計画変更と保存が決定。まもなく、悲願の国指定史跡実現まぢか。



稲村城跡俯瞰図
作画：愛沢彰子

2000年には、里見氏ゆかりの鳥取県倉吉市・関金町や群馬県榛名町（現高崎市）に呼びかけ、里見サミットを開催。関金子ども歌舞伎の公演など里見交流が始まった。

「戦後50年の集い」や公民館講座から誕生した戦跡保存調査サークルを経て、2004年の赤山地下壕の一般公開を契機に、NPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラムを設立（2008年に改称）。本格的にガイド活動やまちづくり事業をすすめた。同年に開催した第8回戦争遺跡保存全国シンポジウム館山大会の基調報告で、館山市教育委員会は戦跡群をまるごと保存し活用する「オープンエアーミュージアム～館山歴史公園都市」構想を発表。翌年、赤山地下壕の市史跡化が実現した。

館山の福祉施設内に、「戦闘指揮所」「作戦室」と刻まれた額と天井に龍のレリーフが彫られた地下壕がある。同施設には「憶従軍慰安婦」の碑があるため、平和・人権研修のスタディツアー希望者が増える。

この龍の壕を舞台に平和祈念の映画『赤い鯨と白い蛇』が誕生した。安房高女・安房南高校卒業のせんぼんよしこ監督作品。

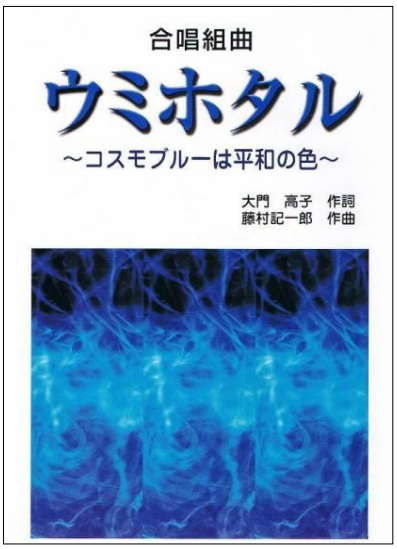
本土決戦抵抗拠点
128高地

「戦闘指揮所」
「作戦室」
昭和19年12月竣工
中島分隊

明治期に太平洋を渡った安房のアワビ漁師たちは、カリフォルニア・モントレー湾域に移住し、日米親善に貢献しながらも、戦争によって別れ離れになってしまった。半世紀を経て、市民の地道な調査によって埋もれた歴史に光が当たり、「戦後60年」の米占領軍館山上陸の日に米国市民40名が来房した。平和祈念交流が実現するとともに、二世三世の初対面や墓参を果たし、世界史的な史実も明らかになりつつある。

平和学習が契機となり、安房南高校生徒会では、内戦やエイズで苦しむ孤児たちのためにウガンダ支援活動をはじめた。2008年に安房南高校が統廃合されたが、この活動はNPOフォーラムや安房・平和のための美術展、安房高校JRC部などに引き継がれている。

戦時下の子どもたちがウミホタル採取を命じられていたエピソードから、合唱組曲がつくられ、ウミホタル合唱団・安房も誕生した。



江戸期の館山に建立された大巌院のハングル「四面石塔」を活かした国際理解教育は、日韓両国の歴史教育者から注目され、2002年には日韓歴史シンポジウム、2005年には韓国浦項（ポハン）の小学生20名が来館し日韓子ども交流をおこなった。

済洲島の大学教授視察

館山の戦跡や韓国人海女の墓地巡る

房総との歴史的関係に関心

韓国人墓地を視察する趙教授＝鴨川の長興院で

大正から昭和初期にかけて、済州島のアワビ海女たちが房総にも多く移住している。和田浦で活躍した海女たちは、戦後、鴨川の長興院に多くの墓碑を建立している。

明治期、館山で訓練していた水産教育の練習船「快鷹丸」が朝鮮海域で座礁した。韓国浦項（ポハン）では、「海に生きる男の友情の証」として地元漁師たちが今なお遭難記念碑をまもっている。

2007年9月9日、遭難100年を記念し、旧東京水産大学同窓会「楽水会」らとともに参詣訪韓、現地住民と交流を図った。

2009年夏に訪韓。ソウル平和博物館主催の教員平和研修にて講演。さらに、仁川では歴史・文化遺産を活かしたまちづくりの市民グループとの実りある交流が実現した。

2010年夏、第9回日中韓青少年歴史体験キャンプin安房を開催。160名の若者が来房、アツイ討論を交し、平和宣言をつくった。

韓国に4作品を寄贈

館山の吉田さん制作きょうNPOメンバーら訪韓し

浮書絵彫りに感謝と友好の願い込め

練習船遭難100年

小高記念館（大正期の銀行建物）を生涯現役で活躍する「創年」のたまり場として、2006年に開館。観光キャンペーン（ちばDC）では商店街と連携を図り、空き店舗や既存店を「まちかどミニ博物館」とし、まちなかの活性化に寄与した。知恵袋講座や地図づくり講座、元気なまちづくり市民講座などを開催し、参加者のアイデアからさまざまなプロジェクトが誕生。

安房の食文化研究プロジェクトが誕生し、館山市保健推進協議会との協働により、郷土料理レシピ集『おらがごっつお』を作成した。2009年度は富崎地区の漁村料理レシピ集も完成。

日本を代表する画家・青木繁が《海の幸》を描いてから100年を機に、2005年より富崎地区コミュニティ委員会との協働でまちづくり事業をすすめている。

▲富崎小学校卒業制作《海の幸》

▼児童による安房節演

かつてはマグロ延縄船発祥の地として栄えた漁村も少子高齢化がすすみ、現在は約500世帯1,000人の富崎地区。児童数15名の小規模校ながら富崎小学校では、青木繁・安房節(舟唄)・アジのひらきの頭文字をとって「3つの〝あ〟」のふるさと学習をすすめている。

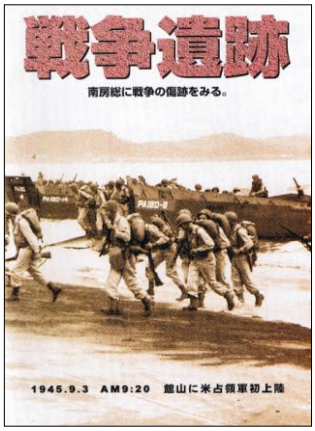
2008年秋には、同地区住民と全国の美術関係者が発起人となって「青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会」を発足。現在、青木繁が滞在した「小谷家住宅」は2009年、館山市有形文化財に指定された。生田勉設計による《海の幸》記念碑は、青木繁の没後50年に館山市長をはじめ著名な画家らが資金調達に奔走して建立されたという由緒あるもの。ふるさと学習にちなんで取り組み中の「漁村が誇る3つの〝あ〟のまちづくり」事業が、国土交通省の「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業に選定された。青木繁没後100年にあたる2011年を記念し、「小谷家住宅」の修理事業のための募金運動が全国展開している。

館山には、手作り甲冑という市民文化がある。昨今の歴史ブームでは、若い女性を中心に戦国武将の人気が高い。なかでも、戦国系アニメやゲームの武将キャラクターに似せた衣装を制作し、自ら扮する若者文化をコスプレという。

市内外の歴史ファンや殺陣師とともに多様なまちづくり事業に取り組み、里見氏城跡群の保存・活用を図っている。

里見氏改易(1614)から400年、馬琴の『南総里見八犬伝』筆起こし(1814)から200年を記念し、里見氏をテーマとしたNHK大河ドラマを望む市民運動が起こっている。

◆「あわ・がいど」シリーズのご案内 ◆



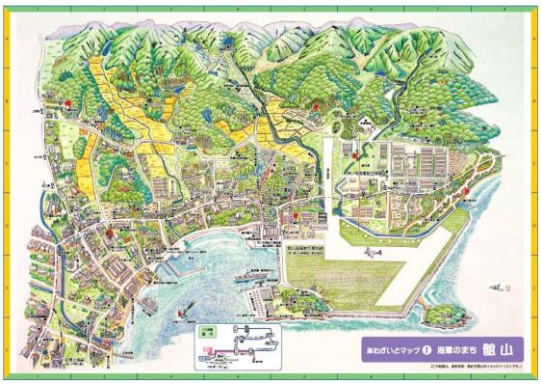
①『戦争遺跡』

②『房総里見氏』

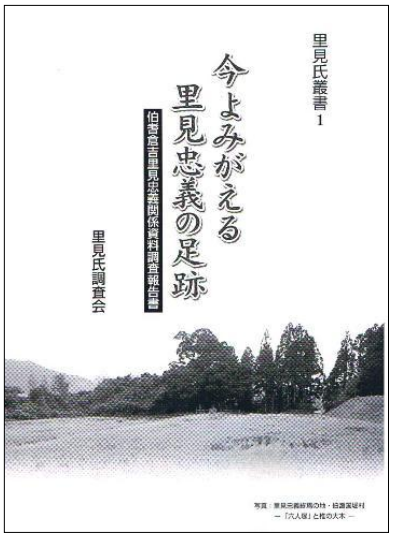
③ 『安房古道を歩く』

『足もとの地域から世界を見る
～授業づくりから地域づくりへ』

『太平洋にかかる橋 ～
アワビがむすぶ…日米交流 』



(B2 版カラー)
『あわがいどマップ①海軍のまち・館山』
＊
『あわがいどマップ②黒潮に生きる漁村・富崎』



里見叢書① 定価1,000 円
『今よみがえる里見忠義の足跡』
伯耆倉吉里見忠義関係資料調査報告書

…購入希望はこちらへ… ＜定価＞ 小冊子 600 円 マップ 300 円
▼宮沢書店 0470-23-7771 ▼Books 松田屋 0470-23-1661

NPO法人安房文化遺産フォーラム

〒294-0036 千葉県館山市館山 95 小高記念館
Tel＆Fax：0470-22-8271 E メール awabunka@awa.or.jp
＊公式ホームページ http://bunka-isan.awa.jp/
＊Blog 安房国再発見 http://ameblo.jp/awabunka1

◎会員のご案内 … NPOだよりをお送りします。

＊A会員 年会費: 2,000 円
NPOの趣旨に賛同し、日常の活動や運営を支え、総会に参加する個人

＊B会員 年会費(一口): 個人 1,000 円／法人 10,000 円
NPOの趣旨に賛同し、情報を共有または資金等の賛助をする個人または法人

◎ 郵便振替口座 00100-0-334130 NPO法人安房文化遺産フォーラム